

臨床実習における来院患者の現状

福世泰史¹⁾ 藤田 格¹⁾ 関 真亮¹⁾ 中澤寛元¹⁾
沢崎健太¹⁾ 村上高康¹⁾ 日野こころ¹⁾

1) 健康鍼灸学科

Current Status of Patients in Clinical Practice

Yasufumi FUKUYO, Itaru FUJITA, Masaaki SEKI, Hiroyuki NAKAZAWA
Kenta SAWAZAKI, Takayasu MURAKAMI and Kokoro HINO

要 旨

ここは鍼灸接骨院で行われた健康鍼灸学科の臨床実習における来院患者の統計を報告する。1年間で臨床実習に協力して頂いた患者数は76名で延べ人数は前期が240名、後期が283名であった。男女比は男性が29%、女性が71%であった。年代別では70歳代が最も多かった。来院の理由となる愁訴は、腰痛が32名、次いで肩こり24名、膝の痛み21名と続いた。地域別では近隣の浜松市北区に住む方からの来院が多かった。健康鍼灸学科では、今後も臨床実習を通じて地域貢献を推進する。

キーワード：鍼灸、臨床実習、来院患者、地域貢献

Abstract

I report the statistics of the next House patient in the bedside teaching of a healthy acupuncture moxibustion subject performed at the House of evergreen leaves acupuncture moxibustion bonesetting. As for the number of patients that had a bedside teaching cooperate in one year, as for the total number of persons, 240 people, the latter period were 283 people in 76 people the first half year. As for the sex ratio, 29%, a woman were 71% a man. The generation had most 70s by the distinction. As for the complaint to become the reason of the next House, low back pain continued with 21 pains of 32 people followed by 24 stiff shoulder, the knee. There were many next Houses from the one that lived in Kita-ku, Hamamatsu-shi of the neighborhood by the local distinction. In the healthy acupuncture moxibustion subject, I will promote local contribution through a bedside teaching in future.

Keywords : acupuncture, clinical training, patient, regional contribution

1. はじめに

本学にある「付属こは鍼灸接骨院」は、常葉学園医療専門学校の付属鍼灸接骨院として2005年に開設し、15年目を迎えた。平成22年度からは前身である浜松大学、平成25年度から常葉大学付属の鍼灸接骨院として臨床活動を継続している。

鍼灸接骨院は鍼灸院と接骨院に分かれており、施術は健康鍼灸学科、健康柔道整復学科の教員が完全予約制で施術にあっている。その中で、健康鍼灸学科では、前身となる浜松大学であった平成25年から、認定規則¹⁾及び指導要領²⁾に基づき、4年次に「こは鍼灸接骨院」において臨床実習を行っている。本学における鍼灸学科の教育研究に係わる施術の場として機能するとともに、西洋医学と東洋医学を統合した施術を通し、本学の理念である「地域貢献」を目的としている。臨床実習の実施に際しては学科長を長とし、実習担当者を構成員とする実習委員会を立ち上げており、実習に関する諸事項の取り決め、実習施設の衛生環境管理、安全管理、守秘義務の遵守、実習教育研究活動等を実行するために、必要に応じて随時、実習委員会を開催しており、安全で教育効果の高い実習を実現させている。

そこで今回の報告は、平成30年度の「臨床実習Ⅰ」及び「臨床実習Ⅱ」の1年分の来院患者について分析し、今後の臨床実習教育に資することを目的とする。

2. 対象と方法

付属こは鍼灸接骨院の来院患者のうち、平成30年4月から7月まで15回実施された「臨床実習Ⅰ」及び、平成30年9月から平成31年1月まで15回実施された「臨床実習Ⅱ」の時間に来院されている、本学の教育・研究に対して、同意をいただいている臨床実習協力患者を対象者として抽出し、年齢、性別、住所、愁訴等の情報を得た。

3. 結果

今回の調査では、1年間で臨床実習に協力していただいた患者数は76名、延べ人数では前期にあたる「臨床実習Ⅰ」が240名、後期にあたる「臨床実習Ⅱ」が283名であった。また、「臨床実習Ⅰ」と「臨床実習Ⅱ」における来院患者の多くが再診患者であり、実習日の平均来院患者数は「臨床実習Ⅰ」では16名、「臨床実習Ⅱ」においては18.8名であった。

来院患者の性別は女性54名（71%）、男性22名（29%）であり、女性の方が多い結果となった。（図1）年代別では70歳代が最も多く（26名、34.2%）、次いで60歳代（18名、23.7%）、40歳代（10名、13.2%）であり、60歳以上の患者が全体の63.2%を占めていた。（図

2）居住別にみると、浜松市北区が30名で最も多く、次いで浜松市以外が20名、浜松市中区が13名であり、常葉大学のある浜松市北区が全体の約40%を占めていた。（図3）割合としては浜松市内が71.1%で、浜松市以外の静岡県内が26.3%、静岡県外が2.6%であった。

来院の理由となる愁訴は、腰痛が32名で最も多く、次いで肩こり24名、膝の痛み21名、肩関節の痛み14名、首の痛み・下肢の痛み10名、痺れ（上肢・下肢）5名、小児鍼4名、目の疾患（眼精疲労含む）3名、むくみ・不眠・手首の痛み2名であった。その他の愁訴としては、こむら返り、不妊、ストレス、息苦しさ、眼瞼の腫れ、ヘルペス、咳、耳鳴り、高血圧、円形脱毛、冷え、腹部の痛み、便秘があった。（図4）

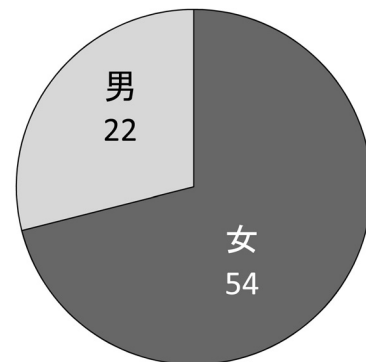


図1 来院患者の性別

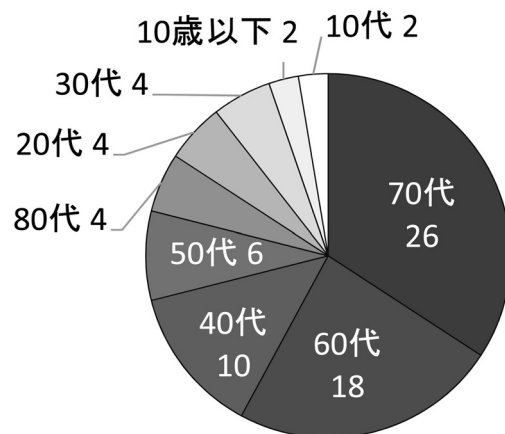


図2 来院患者の年齢

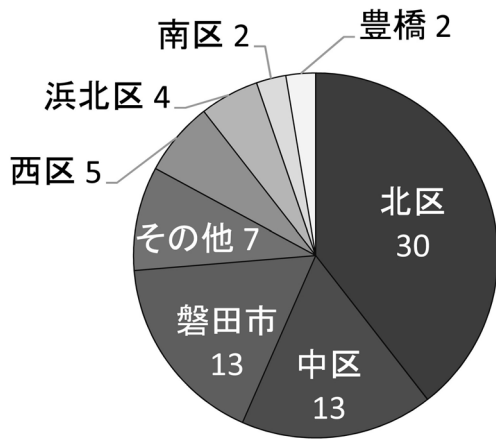


図3 来院患者の住所地

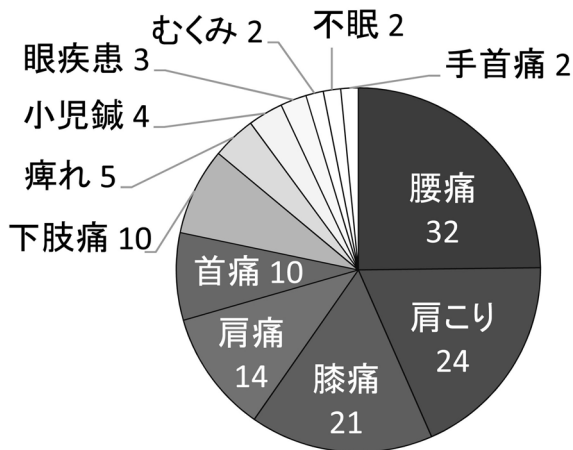


図4 来院患者の愁訴

4. 考察

刷り上りで今回の調査から、臨床実習に協力してくれる患者は60～70代が多い事が分かった。これは臨床実習が行われる時間が、平日の日中という日程上の関係で、仕事を定年している、もしくは農業や自営業などを行っており時間にある程度融通することができる世代が来院しやすいからではないかと推測される。

またここは鍼灸接骨院は特にチラシやテレビ・ラジオなどの広告媒体を使っていないにも関わらず、常葉大学近隣の北区もしくは中区在住の方の来院が多い理由は、患者同士の口コミである。実際に患者にどう知ったのか聞くと、「紹介で教えてもらい、聞くまでであるとは知らなかった」という回答が多い。事実、臨床実習以外で来院される患者の8割は口コミである。またそれ以外にも、常葉大学浜松キャンパスで行われる公開講座や健康フェア、近隣での「健康」をテーマにした講演も大きく関与している。本学健康鍼灸学科は健康フェアで来場してくれた方に4年生が1人ずつ付き健康相談を行っている。

それを評価してもらい臨床実習に来てくれたり、講演や公開講座を聞いて興味を持ったからと来院してくれる患者もいることから、浜松キャンパスで行っているイベントに会場しやすい北区・中区の患者が多いのではないかと示唆される。

臨床実習における患者の愁訴は、腰痛、肩こり、膝の痛みが多く、厚生労働省の国民生活基礎調査³⁾における病気や怪我等の有訴者率の上位と同様の結果となった。これは北区では畑や田んぼが多く、農家である患者が多い事、家の周囲の草取りをする方が多いからと推測される。しかし、このような運動器疾患ばかりではなく、内科的疾患や精神的疾患でも来院して頂けるのは、鍼灸治療が多彩な愁訴に対応しており、それを期待している患者も多いことが分かった。

5. おわりに

本学の教育理念に「地域貢献」があり、ここは鍼灸接骨院では体の事について悩んでいる方に少しでも力になれるよう日々施術を行っているが、臨床実習では本学科の学生の為に患者に協力して頂いている。週に1度の授業ではあるが、臨床実習がこんなにも多くの近隣にお住いの方々に支えられているのだと改めて感じ、「地域貢献」の本質を理解することができた。健康鍼灸学科では臨床実習を通じて、来院してくれる患者の健康増進を日々考え、地域で活躍するという高い意識を持てる学生の育成に努めていきたい。

文 献

- 1) あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に関わる学校養成施設認定規則 第2条第3項：1951
- 2) あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師養成施設指導要領 第9項：2000
- 3) 大臣官房統計情報部人口動態・保健会社統計課世帯統計室、平成28年度国民生活基礎調査の概況、三世帯員の健康状況、18頁：2017